

農業高校の地域と連携した花のまちづくり活動

公益財団法人全国学校農場協会 常務理事

千葉県立鶴舞桜が丘高等学校 教諭 風間 龍夫

1 はじめに

全国の農業高校は約380校あり、農業高校としての特性を活かし、さまざまな地域活動に取り組んでいる。その中でも、花のまちづくり活動、花いっぱい運動は多くの学校が取り組み、農場協会の例年の調査では3割程度の学校が行っていると回答し、近年ではまだ少数であるが花育にも積極的に取り組む学校もある。農業高校における花のまちづくり活動は、活動形態はさまざまであるが、学校で育てた花壇苗をプランター等に植えて近隣の商店街、駅、市役所、病院、小中学校等に飾ったり、地域の花壇植えをおこなっていることが多いようである。今年度はこれらの中で地域団体や小中学校等と連携して実践している花や緑を用いた植栽活動を、全国の活動事例として紹介し、さらに地域と連携した活動の意義・問題点・方向性等についても考察したい。

(注 農業高校は、農業に関する科目を学習する学校の総称で、農業単独校、普通科等の他学科との併置校、総合学科校等からなり農業関係高校ともいう。)

2 北海道新十津川農業高等学校(樺戸郡新十津川町)の事例

「植栽活動による専門性の向上と学校PR」

記載 丹 倫光

活動の概要

新十津川町は、北海道の空知地方中部にある米どころの町で、町内には小・中・高が1校ずつ設置されています。本校は農業・生活科1間口(クラス)の農業高校で、農業と生活の2類型により資格取得学習の推進と充実を図り、農業を通して豊かな人間性の育成を目指しています。

本校は町立の高校ではありませんが、町内外の花壇苗の予約を受け生産・販売しているだけでなく、花壇植栽をはじめとする地域行事への全校ボランティア活動によって、町になくてはならない学校として高い評価を受けています。

また、北海道新聞社主催の花フェスタ札幌で行われる、『北海道農業高校生ガーデニングコンテスト』では、生徒が農業学習で身に付けた知識や技術を作品として表現し、昨年度から2年連続入賞するなど、本校の活躍が広く認知されています。

植栽ボランティア活動

① 概要

本校は、毎年町内の植栽ボランティア活動を全学年で実施しています。高校周辺の花壇には各学年の授業で宿根草とマリーゴールド、小・中学校の通学路には町内会・町教委を中心とした「美しい通学路をつくる会」と一緒にサルビアとマリーゴールド、新十津川駅から空知中央病院前の花壇は、病院の職員の方々と一緒にサルビアとペチュニアを合わせて約10,000本植えました。また、隣町の滝川市では、中央商店街からの依頼を受け国道12号線沿いの大型ベンチに商店

街の方々とベゴニアとマリーゴールドを約4,000本植えています。



② 成果

地域住民の方々と作業をしながら会話を通じて交流することは、生徒の科学性や社会性を向上させる効果があります。男女をはじめ、小学生から老人まで様々な異世代交流の中で「どうやれば花がたくさん咲くの?」、「肥料はどうやって与えるといいの?」等の質問に、適切な言葉で相手に伝わる説明をしなければなりません。学習内容の理解や反復が必要であるだけでなく、自分の発言に責任が生まれることから実に勇気のいる行動となりますので、通常の授業よりも真剣さが増し、高い学習効果が期待できます。

③ 課題

ボランティア活動を終えると、学校生活に追われて管理作業は地域の方に任せきりになってしまいがちです。活動が断片的で総括まで至らない部分があったり、様々な苦悩を抱えている学校も多数あるかと思いますが、マニュアル化が困難であることから、目的を明確にし活動を焦点化していく必要があると思います。

花フェスタ札幌への出展

① 概要

毎年6月下旬に、札幌市大通公園にて花フェスタ札幌が開催されています。参加校は、農業の専門学習で身に付けた、ガーデニングの計画・設計・栽培についての知識や技術を用いて、規定のスペースに自校で栽培した鉢花・花卉を使って、創意工夫を凝らしたガーデニング作品を製作・展示しています。本校は草花の科目を履修する2学年農業コースの生徒が毎年担当しています。



② 成果

入賞を重ねる毎に、「大賞常連校に勝ちたい。」という意欲が生徒に芽生え、「一年草が多いから宿根草で差別化しよう。」とか「雑貨を増やしてストーリー性のあるデザインにしよう。」といったように、作品の問題点や改善点を生徒自らが見つけ、具体的にどのように対応するかを考える力が身に付くようになりました。

③ 課題

農業の専門学習の中で、展示や表現といった学習の機会が少ない現状にあります。出展にあたり、デザインだけでなく栽培方法や開花時期の調整等の計画・設計を生徒自らが考え、作品を具現化することは極めて困難であることから、学年間の引き継ぎを円滑に行い、継続性や連帯感のある作品製作のために、教員による適切なバックアップが必要です。

まとめ

自分達が育てた花が通学路やイベントを飾り、様々な方面から評価されたり、新聞等で報道されることで農業高校の学習成果が広く認知されています。これらの実践によって、農業の専門学習で得られた知識や技術を生徒自身が再認識するきっかけとなり、充実感や達成感を得ることにつながる効果があるのではないかと思います。

3 青森県立弘前実業高等学校(弘前市)の事例

「花で地域を元気に！」

記載者 教諭 鳴海 純

活動の概要

本校は、農業経営科の他に、商業科・情報処理科・家庭科学科・服飾デザイン科・スポーツ科学科の6学科がある大規模総合専門高校で、学科の特徴を活かした学習はもちろん、26の運動部・文化部が熱心に活動している。6学科中農業経営科のみ農業の学科であるため、単独の活動が難しい。そこで数年前から、授業および農業クラブ活動の一環として、花で元気プロジェクトおよび花文字花壇を展開している。

①花で元気プロジェクト

a. 高速道路インターチェンジの花装飾

授業で活用する農場が狭く校外で活動する場を模索していたところ、高速道路のインターチェンジが殺風景だとの意見があった。授業で作成した花プランターを飾ることをNEXCO東日本東北支社青森事業所に提案し、十和田事業所とも連携して学校近隣の3ヵ所に計100個配置した。農業クラブ役員が休日を利用し、定期的にメンテナンスしている。



b. 小・中学生への花壇植え指導

平成23～25年度「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」の一環として、連携し

て活動する碓ヶ関小・中学校の花壇整備を本校生徒が指導する機会を得た。当日は農業クラブ役員および草花専攻生が、約2,500本の各種花壇苗を、植え幅がわかるように結び目をつけたビニル紐を活用し、笑顔で植え方を指導する様子が見られた。



②花文字花壇制作

数年前より草花を専攻する3年生にデザイン画を募り、花壇植え実習の一環として制作している。今年度は「HiroJitsu」（弘実）をロゴ風にデザインし、マリーゴールドおよび白妙菊を約200本で文字を配置した。10月の文化祭が終わるまで定期的に管理した。今後は地域の花壇でも実施できるよう、呼びかけていきたい。

活動の効果と課題

校内での活動以上の笑顔や照れ、試行錯誤する真剣な姿は、人とコミュニケーションを取りながら実施してこそ見られる姿で、参加した生徒の満足度は高い。また、自分で考えることを経験することで学習面での主体性が向上し、校外活動はよい学習機会となっている。

地域と取り組む活動を増やしたい反面、活発な運動部・文化部活動と時間が重なるため放課後の人員確保が難しいこと、交通手段の確保が難しいことなどが課題として挙げられている。

4 宮城県南郷高等学校(遠田郡美里町)の事例

「フラワー・サービス・プロジェクト」活動

記載 松野 和史

活動の概要

南郷高校は普通科、産業技術科の2学科各1クラスの学校で、164名の生徒が学ぶ小規模校です。産業技術科草花班の実習は生徒が種を一粒ずつ手で播くことから始まり販売に至るまで、一連の管理に関わる知識と技術を学習しています。本校で生産している草花苗はとても人気があり、生産された花のほとんどは地域の小・中学校や老人クラブなどの花壇で利用されています。また、農業クラブ員が行うボランティア活動で、地域の花壇に植栽されてきました。

しかし、最終的に余剰となった花苗は廃棄され、その利用が大きな課題となっていました。「余剰苗を地域のためにもっと活用できないか？」この提案から「フラワー・サービス・プロジェクト」という活動が誕生しました。

フラワー・サービス・プロジェクトは、「花によって潤いのあるふるさと作り」を目標に、以下の3つのテーマで活動を行っています。

南郷高校フラワー・サービス・プロジェクト

活動① 地域の花壇作り支援

これまで生産物販売を行ってきた中で、地域の方から「もっと花を植えたいが予算が足りない」「花の種類がわからない」「花の育て方がわからない」という多くの声を耳にしました。これらの問題を解決するために、南郷高校の花苗を購入いただいたお客様には少量ですが花苗の寄贈を行いました。花壇用にまとまった数を購入されたお客様には苗の特性や花壇の作り方などをまとめたマニュアルと共に、数種類の中から花苗100個を選んで差し上げています。本校の苗は緩効性肥料がしっかりと配合されているのでお客様からは花壇で長く楽しめると好評です。

活動② 花を通じた地域との交流

「美里町南郷地区の学校花壇を南郷高校の花で飾ろう」という生徒の提案から活動が開始されました。最初の頃は放課後生徒が出向き、植栽してくるという活動でしたが、平成26年から小学生、中学生との交流会が実現しました。花壇作りや寄せ植え教室を生徒が講師となって行っています。「自分が卒業した母校や仮設住宅で、この活動を行いたい」という生徒達からの強い要望があり、さらに活動が発展しました。今年は幼稚園、小学校、中学校や仮設住宅と多くの場所で活動を展開することができました。



南郷中学校寄せ植え教室



南郷小学校花壇植栽

活動③ 花のある環境作り

「花によって潤いのあるふるさと作り」という目標で、美里町内の官公庁、駅や商店など人が集まるところ約50か所にプランターを設置しました。また、継続して行っている町内数カ所の花壇植栽も行いました。活動を発展させるため、町内の空いている花壇について役場に問い合わせたところ、老人クラブで高齢化がすすみ管理ができなくなった花壇が多く存在することがわかりました。そのような場所を南郷高校が譲り受け、荒れて雑草だらけになった花壇を蘇らせることができました。



合同庁舎花壇植栽



老人クラブの花壇植栽

フラワー・サービス・プロジェクトの効果と今後の活動

この活動を通して、地域の方々に「南郷高校でこんな花を作っていたんだ」「南郷高校の花は長持ちしていいね」などの声をかけていただけるようになりました。また、町の緑化事業において学校で生産した花苗を利用していただけることになり、町内のほとんどの花壇は本校の花によって彩られています。

この活動によって思いがけない効果もありました。これまで植栽した花壇は、本校が管理を行わないと雑草に埋もれるような状態になっていましたが、地域の方々との交流やPR活動を積極的に行ってきた結果、地域の方々に水やりや草抜きなどの管理を行う姿が見られるようになりました。設置したプランターの花も枯らさないで、しっかりと管理していただける場所が多くなりました。

活動中は地域の方々から「いつもありがとう」という温かい言葉や、多くのコミュニケーションが交わされるようになりました。花によって交流が生まれ、交流することで人は元気になる。地域での絆が強くなることを実感しました。花の持つ力、ボランティア活動の効果に私達、教員も気づかされました。

現在、地域の若手農業後継者との交流会で、フラワーアレンジメントやポプリ作りを学んでいます。今後は夏休みや冬休みを利用して、小中学生向けにフラワーアレンジメント教室などを開催していきたいと考えています。

私達は、「花によって潤いのあるふるさと作り」を目標にこれからも地域とともに活動していきます。

5 岐阜県立飛騨高山高等学校山田校舎(高山市)の事例

「地域に広げよう花の魅力を」

記載 島田 正幸

はじめに

本校は、岐阜県の北部、日本で一番面積が大きい高山市にあり、東に乗鞍、穂高の北アルプスを眺め、西に白山を望む高山盆地にあり、緑豊かなところです。観光スポットとして全国的にも有名な古い町並みや高山祭りがあります。この地域で私たちは、従来から「地域に開かれた学校」を目指し様々な取り組みをしています。

今から13年前、園芸福祉という言葉が注目され始めた頃、私たちの学校では従来から行っていた活動が、まさしくその園芸福祉活動そのものであると知り、より一層その活動に力を入れました。「草花を用い老若男女を問わず、すべての人たちが交流を通して幸せな気持ちになろう！」というテーマをもちスタートしました。最初は、地域の園芸福祉サポーターと連携し、介護老人施設の方々と、花を用いた種まきから花壇作りまでの継続的な交流を行いました。また、観光スポットである古い町並み（上三之町）での朝顔を用いた交流を行い、今ではこの朝顔が古い町並みの景観保存地域の夏の風物詩となりました。

活動内容

本校では、地域の方々との心の触れ合いや、花の魅力を伝えるため、継続的な交流を進めるとともに、園児や小学生などと小さい頃から花と触れ合える交流を進めています。また、高山市役所の高山市民憲章推進協議会から「花作りを一般市民の方々に教える講習会などできないか」という依頼もあり、「地域に花の魅力を広げるため」のよい機会だと思い取り組んでいます。本校の取り組みを、3つ紹介します。

① 地域との継続交流

1) 介護老人施設との交流

花を用いた継続交流を考え、種まき→ポット上げ→花壇作り→花の葉作り→花もち作りなど年間5回の交流を企画立案し実施しました。花による心のケアや、昔を思い出す回想など心のいやし、リフレッシュなど心身的な効果もあり、介護士さんからは「ここへ来るといつもと違って、みんな良い笑顔をしてる」「いつもこの交流を楽しみにしてみえる」と、うれしい言葉も聞かれ、交流の必要性を感じました。



老人ホームとの交流

2) 幼稚園との交流

学校の近くにある幼稚園では、毎年園内の花壇に植え付ける花苗を、本校から購入してみえます。そこで、私たちが幼稚園に出向き、園児たちと一緒に花壇を作ることが出来ないか考えました。幼稚園に連絡したところ、ぜひ一緒にやってほしいという返事をいただき、花壇作

りの交流をすることになりました。園児たちと一緒に土に触れ、花に触れ、花壇が仕上がると園児からは「花ってきれいだね」「花植え楽しかったよ」「おねえさんと一緒に花植えしたよ、ありがとう」など、目を輝かせながらニコニコして話す姿が印象的でした。何か園児の心の中にも花の不思議な力を感じることができました。



園児との交流

3) 小学校との交流

地元小学校から、寄せ植え作りを教えてくださいという話がありました。小学校ではその寄せ植えを、地域でお世話になった方々に「お礼の意味を込めて」贈るということでした。それなら1回だけ交流して寄せ植えを作るよりも、さらにその寄せ植えに、本校生徒と小学生の思いを込めた寄せ植えにしたいと考えました。そこで今まで進めていた継続交流を参考に、たねまきから寄せ植え作りの一連の作業を取り入れ、自分たちで育てた苗で寄せ植えを作る交流を行いました。この交流で作った寄せ植えには、みんなの気持ちが入っており、花に込めた気持ちが贈られた側にも伝わる交流となりました。その後、小学生からの手紙には「おねえさんと作った寄せ植えを、図書館に持って行ったらすごく喜んでもらえて、逆に私もうれしかった」など、花を通して地域に心の繋がりができている事を感じることができました。



小学校との交流



花作り講習会

② 地域との花作り運動

1) 花作り講習会

本校に、高山市役所の高山市民憲章推進協議会（花いっぱい事業）より一般市民の方へ花作りを教えるような講習会を開けないか依頼があり、高山市役所の方と検討する中で、生徒自らが講習会の講師として花作りを教えるという形で、講習会が実現しました。一般市民への花作り講習会では、気軽に花作りを楽しんでもらったり、通常家庭ゴミとなるペットボトルを利用した花植

えなど、花の魅力をもっと理解してもらい、家庭に気軽な花作りを広めています。また、花作りの楽しさ、自宅でもできる寄せ植え・花壇作りの指導も行いました。

2) 古い町並み（上三之町）での朝顔を用いた交流

高山市役所の高山市民憲章推進協議会（花いっぱい事業）より依頼を受け、毎年朝顔苗の配布を継続しています。古い町並みの方からは、「毎年、きれいなブルーの花を咲かせ、この町並みにも合っており、夏の風物詩となっています。観光客もその風情を楽しんでいけます」と言われ、地域との繋がりを感ずることができました。



朝顔苗の贈呈

③ 地域で花イベント開催

さらに地域の多くの方々に、もっと花を知ってもらおうと、学校でのイベント販売や地域でのイベント参加を進めています。

1) 学校でのイベント販売

花の魅力をもっと伝えるため校内で栽培した草花を、季節に応じて一般市民に販売するイベント（市）を行っています。4月には母の日への贈り物としてカーネーション市、月には夏の風物詩として生徒が浴衣を着て、一般市民に販売を行う朝顔市、11月には冬の風物詩としてシクラメン市、2月には早春の花としてサイネリア市を開催しています。販売するときには、栽培管理マニュアルと一緒に配布し、家庭でも長く花を飾ってもらえるように取り組んでいます。



朝顔市



J A ひだ農業まつり

2) 地域でのイベント販売

学校だけでなく地域で行われるイベントにも積極的に参加し、そこでも花の魅力をもっと伝える活動をしています。

地元の生産者などが集まる「JAひだ農業まつり」への参加。このイベントでは、あらゆる年齢層の方々が見えるため、花の販売だけでなく、花を使った交流を考え、誰にでも簡単に作れる自分オリジナルのプチアレンジメントの体験コーナーを作りました。イベント当日は、本校生徒が丹精込めて栽培した花を販売するとともに、プチアレンジメントの体験交流も行いました。プチアレンジメントは大変盛況で、子供、親子、お年寄りなど様々な年齢の方々と交流することができました。花で何かを作るときの皆さんの笑顔、真剣なまなざしなど、生徒自身その花の不思議な魅力を感じることができました。また、販売を通して心の通った交流を行う事ができました。

まとめ

さまざまな交流を通して、地域の方々に花と触れ合う時間を持っていただき、花の不思議な力、花の魅力、花にこめた気持ちが伝わる交流ができました。

①花を育てる交流

地域の方々を対象とした花作り講習会や、園児・小学生を対象とした花育を進めることができました。

②人と人を繋ぐ交流

園児、小学生、中学生、一般市民、お年寄りなど、いろんな世代の方々と地域のイベントで交流することにより、人と人の心がつながる交流ができました。

③気持ちを伝える交流

自分たちが育てた苗を使っての寄せ植え作りでは、生徒と小学生の気持ちの込められた寄せ植えを地域の方々に贈ることにより、花に込めた気持ちが贈られた側にも伝わる交流となり、地域の方々とより一層の繋がりを感ずることができました。

本校では、地域の方々との心のふれあいや花の魅力を伝えるため、小さい頃から花とふれあえるようにと、幼稚園や小学校との継続交流を行っています。また高山市役所からの依頼を受け、花作り講習会を開催したり、校内でのイベント販売や、地域でのイベントへの参加するなど、高校生だから出来ることを工夫し、花の魅力を多くの方々に広げる事ができました。

今後も、生徒が中心となり講習会や即売会（市）、花育活動など継続的に行い、色々な場面で花の魅力を伝えることにより、さらに地域の活性化に貢献したいと考えています。

6 和歌山県立紀北農芸高等学校(伊都郡かつらぎ町)の事例

「地域に親しまれるフラワーロード活動」

記載 上田 治雄

活動の概要

本校は和歌山県の伊都郡かつらぎ町に位置し、周辺は果樹栽培が盛んで、近くには世界遺産の高野山がある。和歌山県で唯一の単独農業高校であり、平成28年度に創立30周年を迎える。生産流通科、施設園芸科、環境工学科（機械コース、土木コース）の3科があり、生徒数265名の小規模校である。

フラワーロード活動は、平成22年度7月から園芸部・農業クラブ・生徒会の役員及び部員と有

志の生徒が、地域共育コミュニティの一環として取り組んでいる。

活動母体及び場所

学校通学路沿いの地域住民（約15名）を対象に本校作物実習室で実施している。又、町内の消防署、病院、保育所、公民館、警察署に対象プランターの配布や花壇の植え付けを実施している。

活動方法

- ・園芸部を中心に農業クラブ・生徒会の生徒が秋まき・春まき1年草の選定と、育苗及びその後の栽培管理を実践する。



播種作業



鉢上げ作業

- ・地域住民及び保育所、公民館には年2回、生徒が植栽方法や管理方法を説明しながら共にプランター（1戸当たり3プランター）に植え付け、持ち帰った後、通学路沿い庭先に配置していただき日常管理をおこなってもらう。



住民の方々との植え付け作業



警察署での定植作業

- ・消防署、病院等には生徒が草花苗を定植したプランターを配布し、警察署では玄関前の花壇に草花苗の定植をおこなっている。

期待する効果

- ・本校生徒が栽培し、地域の方々と植栽したプランター通学路に並ぶことで、自分たちの通学路であるという自覚と美化に対する意識を高める。
- ・生徒が地域の方々との共同作業をとおして、地域理解を深め、かつコミュニケーションの機会を増やすことで、生徒自身のコミュニケーション能力を高める。
- ・地域の方々が、直接生徒と関わることによって生徒理解や学校理解を深め、地域の学校としての意識高揚につなげる。
- ・最寄り駅から学校までの通学路にプランターが並ぶことにより、学校への導線が生まれ、学校への道しるべとなる。

(5) 活動の注意点

- ・生徒には、地域住民との植え付け時に、教科や実習等で学習した内容をもとにコミュニケーションをとるよう促している。
- ・草花選定にあたっては、住民アンケートを参考に草花を選ぶ楽しみや、栽培管理の難易度及び色のバリエーション等も考慮している。

今後の課題

・花壇苗の栽培管理場所

草花生産部門の施設を借りて栽培をおこなっているため、播種時期や最盛期には管理場所が不足する。

・種子・資材等の予算

当初はエコスクールによる活動資金を充当したが、現在は園芸部の活動費で運営している。しかし、資材の老朽化、草花の種類・栽培量、住民の要望等で予算内での運営が難しくなってきた。

・灌水と栽培管理（特に春植え草花の夏越し）

管理は住民の方々や各施設に依頼しているが、設置場所や管理者により、管理方法が違うことが原因で生育不良となるプランターもあるため、秋植えの草花定植時期までに枯死している場合がある。

(参考資料) 栽培する草花の品種 (年により品種数は変更)

春まき草花	品種数	秋まき草花	品種数
マリーゴールド	4	パンジー	10
サルビア	4	ビオラ	6
ジニア	2	デージー	2
トレニア	3	クリサンセマム	1
ペチュニア	2	アリッサム	1
ニチニチソウ	2	テルスター	2
アゲラタム	1	ネモフィラ	1
バコパ	1	ワスレナグサ	1
コリウス	1		
ヒポエステス	4		

7 活動の意義と問題点、今後の方向性について

農業高校の花のまちづくり活動、花いっぱい運動は、農業高校の持つ特性、機能を活かし、自らの手で地域を花で飾る活動を行っている学校が一般的だが、今回の事例のように地域団体や幼少中学校等と連携しながら活動している学校も多い。以下、私が平成23年度まで千葉県立上総高等学校に在職して取り組んだ経験を踏まえ考察してみたい。

地域コミュニティづくりに寄与

千葉県立上総高等学校農業クラブは平成20年度第19回「みどりの愛護のつどい」功労者国土交通大臣賞を受賞したが、次のように紹介されている。（下線は筆者による）

当クラブは「花と緑でうるおいのある街づくり」を目的に、農業クラブの活動として花いっぱい運動、緑化活動に取り組んでいます。平成8年度に君津市市役所を鉢花で飾ったことをきっかけに、今では、君津・木更津地域において、生徒の手により育てた花をプランターに植え、季節をとおして多くの公共施設や地元商店街などを彩っています。

また、多くの箇所では花壇作りも行い、市民団体や小中学校など、各種団体との連携を深め、地域住民参加型の活動を進めています。

活動を始めて10年以上が経過して、今では地域一体となった活動に発展し、緑を介した地域のコミュニケーションの醸成を図り、地域づくり、街づくりに貢献しています。

また、平成18年度第26回「緑の都市賞」都市緑化基金会長賞受賞では、次のように講評されている。

花と緑あふれる街づくりを通して、人々にゆとりと安らぎを与えるとともに、幅広い地域の人たちと交流することにより地域コミュニティの活性化を図ることに寄与している。



木更津駅前花壇



君津市公民館前花壇

このように農業高校の地域団体や小中学校等と連携して実践している花や緑を用いた植栽活動

は、地域で高く評価され、地域にとっては無くてはならない存在となっている。子ども、地域住民、市民団体など幅広い地域の人たちと交流する中で、花を介して地域、学校、人がつながり地域コミュニティづくりに寄与している。

農業高校生に対する学習効果

全国の事例にみられる活動の特徴は、農業高校生の自主的な活動として、生徒がアイデアを出し合い工夫しながら取り組み、学習したことをもとに地域に働きかけ、地域と交流し、そのことによって地域から学ぶという循環の中で学習している。学んだ知識や技術を確かなものとしながら、人とのふれあいをおして共に生きることを学び、社会性や問題解決能力が養われるなど大きな成果も得られている。学習したことが人のためになるということで、体験的学習の新しい取り組みであり、地域に認められ、評価され、生徒の学習意欲の向上に大変効果的である。

地域と連携した活動の問題点と方向性

私は長年花いっぱい運動に携わり、多くの地域団体と共に活動してきたが、地域団体の成熟度によって問題点は異なってくる。管理方法の違いによって、2か月ほどもすれば雑草に花が埋もれてしまう所がある一方で、反対に、適切な管理をして数か月きれいに咲かせ続ける所もある。えてして前者の例になりがちで、その後の管理も農業高校が行うとなると農業高校側の負担が多くなる。

花壇作りの一番のポイントは、花壇植え付けよりも、その後の継続的な管理であって、花をきれいに長く楽しむには、除草、花がら取り、切り戻し、水やり等の地道な作業が必要である。「花壇とは美しくしようとする人の手が加わってこそ、美しい花壇になる」ということである。



農業高校からすれば、花壇の植え付けは地域団体と一緒にいっても、その後の管理は、地域団体の側をお願いしたいことである。農業高校の活動には限界があり技術的な支援は行っても、管理は主に地域団体がやるべきで、その方が活動が長く維持されると思う。ぜひ、地域団体には継続的な管理ができる体制作りをお願いしたい。農業高校には地域から「花を飾ってほしい。花壇を作ってほしい」という要望がよくあるが、「花を植えてからの管理ができますか」と問い返すようにしている。地域団体の方々には継続的な管理をして「育てる楽しみ」を味わってほしいと

思う次第である。（注 花壇植え付け後の栽培管理については平成27年度花育読本「花をきれいに長く楽しむ栽培管理」を参照）



今回、全国の農業高校の地域と連携した花のまちづくり活動の事例を紹介したが、活動内容はどれも「花づくりは まちづくり 人づくり」に尽きると思う。活動をとおして地域と学校がつながり、子ども、地域住民、お年寄りと人がつながっていく。地域の人々が交流し作業をする中で、花を愛で楽しみ、自然と心に安らぎとゆとりが生まれ、互いの語りもあり心が一つになっていく。こうした農業高校の地域と連携した花のまちづくり活動が全国で取り組まれていることは素晴らしいことだと思う。

